

平成 20 年度第 1 回
「健康食品」による健康被害事例専門委員会
からの報告

平成20年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

1 開催日時・場所

平成20年7月14日 午後6時から午後8時まで
都庁第一本庁舎42階 特別会議室C

2 議 事

(1) 健康被害事例の分類方法について

平成19年度第2回専門委員会に引き続き、都医師会、都薬剤師会から寄せられた「健康食品」の利用との関連が疑われる健康被害事例報告の分類方法について検討した。

報告された情報のうち、摂取から発症までの期間や転帰状況、原材料と症状との関係を示す文献情報の有無、薬剤リンパ球刺激試験等の実施結果、再摂取での発症状況、同様な症状を起こす可能性のある薬物や食品の摂取の有無に関する情報について点数化を行い、併せて重篤度を加味して、緊急度に応じた対応（調査、検討・観察、蓄積）をとるための分類方法を採用することとした。

当分の間、この分類方法を運用して知見を集積することにした。

(2) 報告事例について

平成18年7月1日から平成20年5月31日までに報告のあった延べ126事例について、次のとおり報告を行った。

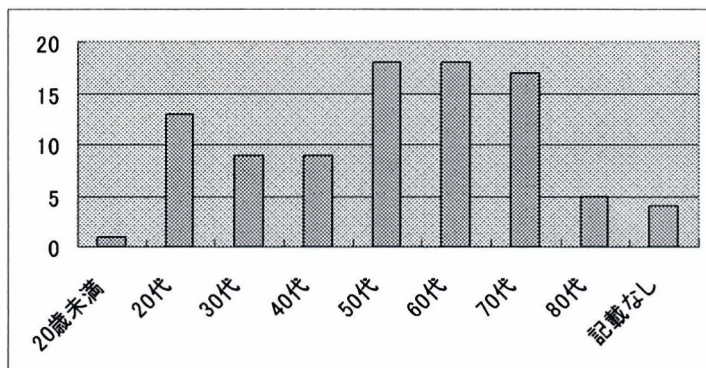
また、(1)による分類方法により事例を分類した結果、緊急に調査すべき情報はなかった。

なお、報告された情報が不十分であった場合、必要に応じて情報を求めていくこととなった。

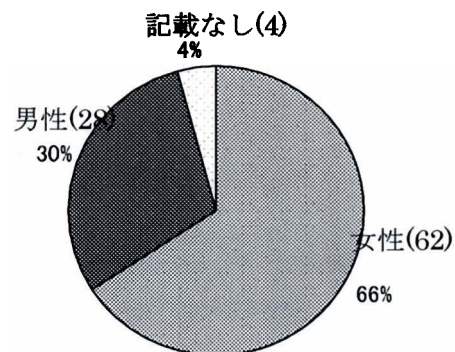
ア 報告事例の内訳

医師会	61人	延べ	89製品
薬剤師会	33人	延べ	37製品
計	94人	延べ	126製品

イ 年齢別人数分布
人数 (N=94)



ウ 性別割合



N=94

年齢別人数分布によると、20代及び50～70代の報告が多い。

性別割合によると、女性（62人、66%）の報告は、男性（28人、30%）の2倍以上であった。

エ 「健康食品」の入手方法

入手方法	製品数
薬局・薬店・ドラッグストア	40
インターネット・カタログ通販等	37
知人からもらった	6
個人輸入	2
訪問販売	1
店頭購入	1
「健康食品」勉強会	1
不明	34
記載なし	4
合計	126

オ 「健康食品」の利用目的

目的	製品数
健康維持・栄養補給	31
関節痛(ひざなど)	15
ダイエット	13
病状の改善	10
血液をさらさらにする	5
美肌	5
バスタップ	3
その他(強肝/利尿など)	14
不明	20
記載なし	13
合計	129

※複数回答あり

「健康食品」の入手先としては、「インターネット・カタログ通販等」や「薬局・薬店・ドラッグストア」が多く、それぞれ全体の約3割を占める。

「健康食品」の利用目的は、「健康維持・栄養補給」、「関節痛（ひざなど）の改善」、「ダイエット」などであった。

東京都食品安全情報評価委員会
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿
(五十音順・敬称略)

氏 名	所 属 等
池上 幸江 (○)	大妻女子大学教授
梅垣 敬三	独立行政法人国立健康・栄養研究所 情報センター長
江本 秀斗	社団法人 東京都医師会理事
内藤 裕史	財団法人 日本中毒情報センター理事
浜野 弘昭	特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構事務局長
原 博	社団法人 東京都薬剤師会理事
廣畑 俊成	北里大学医学部膠原病・感染内科教授

(○) 座長